

**2018 年度
事業報告書**

2018 年 4 月 1 日から

2019 年 3 月 31 日まで

公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	ごあいさつ	1
事業報告		
1	総 会	2
2	役員会	2
3	会 員	2
4	調査及び研究（定款第5条1号）	3
5	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）	4
6	学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）	5
7	人材の育成（定款第5条4号）	6
8	規格の作成及び普及（定款第5条5号）	9
9	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）	11
10	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）	12
11	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）	13
	参考：事業区分の説明	14

ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会
会長 坂本 秀行

平素より、本会の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本会は、個人会員数を平成が始まった1989年の約25,000名から、今年度末は約5万名と倍増し、700社近くの賛助会員も有する日本有数の科学技術系の学術団体となりました。これもひとえに本会に携わる方々の垣根を越えたご尽力、ご活躍の賜物であると、深く感謝申し上げますとともに、会員数5万名規模の学術団体にふさわしい会員サービスや、活動のより一層の発展・充実に向けた事業強化に取り組む覚悟を新たにしております。

この一年の活動を振り返ってみますと、昨年5月の春季大会・展示会では学術講演会への参加登録者数、展示会の出展小間数・来場者数がいずれも過去最多となる好調なスタートを切りました。7月の名古屋での展示会においても、前回は上回る出展規模、来場者数となりました。その後の7月の横浜でのキッズエンジニア、9月の学生フォーミュラ大会、10月の名古屋での秋季大会などの各イベントを成功のうちに開催することができました。学生フォーミュラ大会においては、認知度向上のためドキュメンタリー番組を制作し、昨年11月に全国放送いたしました。また、今年3月には、新たな技術領域の人材発掘を目的とする教育プログラムとして自動運転AIチャレンジを開催しました。学術研究分野事業、標準化事業、及び出版事業においても、自動運転、電動化、情報通信を始めとする新しい技術分野への対応など、精力的に活動しています。

さて、本会では昨年「2050年チャレンジ」を公表いたしました。今、自動車産業は大きな変革に直面しており、2050年に向けたこれからの30年は、平成の30年の延長線上にはないでしょう。その中で、協調領域を見定め、その質と効果を向上していくことが日本の自動車産業の発展にとって必須であり、自動車技術会に対する期待もますます大きくなっています。2050年までに予測される課題を解決し、世界一の自動車技術の研究を促進するとともに、それを担う人材の育成、並びに新たな時代に求められる自動車技術者のモラルを社会実装によって醸成する活動に取り組みたいと思います。

引き続き、会員並びにご関係各位にご支援とご協力をいただきながら、協調を深化し、技術を進化させ、自動車技術者の真価を高め、さらにはそれらを社会に発信すべく事業を進めてまいりたいと存じます。日本の自動車技術、自動車産業のさらなる発展に向けて、より一層のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

1 総 会

2018年5月24日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において第8回定時総会を開催した。
松本会長（2016-2017年度）の議長により次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

出席者による議決権の総数：186個（委任状を含む）

議案：

第1号議案：2017年度決算報告の件

第2号議案：2018-2019年度理事選任の件

第3号議案：2018-2019年度監事選任の件

第4号議案：役員の報酬等の件

第5号議案：名誉会員推薦の件

報告事項

(1) 2017年度事業報告の件

(2) 2018年度事業計画の件

(3) 2018年度予算の件

(4) 2050年チャレンジ～自動車技術会ロードマップ改定の件

2 役員会

理事会5回、担当理事会4回、及び支部担当理事会2回を開催した。

3 会 員

2018年度中の個人会員の入会者数は3,733名、退会者数は4,201名で、2019年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し468名減（約1%減）の48,948名となった。賛助会員の入会数47社、退会数は20社で、2019年3月31日現在の会員数は前年度比27社増の669社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合 計	賛助会員
2014年度	46	44,758	2,196	47,000	563
2015年度	49	46,115	2,196	48,360	589
2016年度	50	46,464	2,473	48,987	615
2017年度	52	47,150	2,214	49,416	642
2018年度	51	46,887	2,010	48,948	669

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海 外	合 計
2014年度	211	642	18,336	21,303	5,589	642	277	47,000
2015年度	216	622	18,462	22,059	5,855	854	292	48,360
2016年度	240	564	18,714	22,286	6,046	858	279	48,987
2017年度	212	575	18,680	22,497	6,247	939	266	49,416
2018年度	215	527	18,483	22,153	6,390	930	250	48,948

4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

自動車及び自動車関連技術の調査・研究・交流活動を目的とする45部門委員会と2特設委員会の活動を推進した。2017年度に各部門委員会が新規策定した技術ロードマップを5月にウェブ上で公開した。

共同研究センターでは、産学連携事業、他学会協会との連携事項、受託研究事業などを目的とする6委員会が活動を推進した。うち、「サイバーセキュリティ講座企画委員会」は、共同研究センター傘下での活動を終了し、教育会議傘下へと移行した。

部門委員会と共同研究センター傘下の各委員会の企画により、2018年春季大会においては79件のオーガナイズドセッション（OS）及び14件のフォーラムを実施、名古屋展示会においては、2件のフォーラムを実施し技術交流の促進に大きく貢献した。国際会議関係では、「EVTc2018（EVS-31と共催）」を開催した。

技術会議においては、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の企画・設置・改廃検討を行うことを目的としたイノベーション創出委員会を設置した。

技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回開催。
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を行った。3回開催。
イノベーション創出委員会	今年度新設。新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の再編・統廃合の検討を行った。3回開催
合同会議	2018年8月23日開催（早稲田大学理工学部 西早稲田キャンパス）。約140名出席。基調講演2件。事務局から事業報告と2019年度事業計画策定を依頼。技術部門貢献賞表彰、及び懇親会を開催。
分野連絡会	各委員会の独自領域と共有領域を明確にすることなどを審議・検討、及び共有領域の技術について情報交換を行う。
部門委員会・特設委員会	45部門委員会、2特設委員会で活動。委員会延べ開催数276回、話題提供数459件。
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を行った。
国際会議	以下の国際会議を開催した。 ・EVTc2018（EVS-31共催）（2018/9/30～10/3、神戸コンベンションセンター）
OS・フォーラム	OS:2018年春季大会にて77件を実施 フォーラム:2018年春季大会にて11件、名古屋展示会にて1件を実施
シンポジウム・講習会	シンポジウム:11件実施 講習会:3件実施 シンポジウム、講習会合わせて総動員数1,528名
公開委員会	15件を企画・実施
研究調査事業	9委員会が12テーマで実施。予算総額:8,300千円
受託・請負事業	大気環境技術・評価部門委員会 受託先:日本自動車工業会

その他活動	振動騒音部門委員会	第8回技術者育成プログラム(主に学生対象)
	流体技術部門委員会	第3回技術者育成プログラム(主に学生対象)
	デザイン部門委員会	第6回二輪デザイン公開講座
		第7回中高生対象カーデザインコンテスト
	材料部門委員会	日本鉄鋼協会と「自動車用材料共同研究調査会」で連携
	構造形成技術部門委員会	新構造材料技術研究組合(ISMA)と「マルチマテリアル構造設計技術調査委員会」で連携
	自動車制御モデル部門委員会	計測自動制御学会と連携
共同研究センター		
運営委員会	共同研究センターの運営他について議論した。1回開催。	
委員会活動	6委員会にて調査研究活動を推進。委員会延べ開催数34回、話題提供者数17名。「サイバーセキュリティ講座企画委員会」が11月より教育会議傘下へ移行。	
OS・フォーラム	OS:2018年春季大会にて2件企画・実施 フォーラム:2018年春季大会にて1件、名古屋展示会にて1件を実施	
研究調査事業	1委員会が1テーマで実施。予算:400千円	
OS: Organized Session		
EVTec: International Electric Vehicle Technology Conference		
EVS: Electric Vehicle Symposium & Exhibition		

5 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業)

春季大会は過去最多の参加者数となった。秋季大会(名古屋)は昨年大阪開催時を上回る2,668名の参加登録があり、前回名古屋での開催時(2,328名/2013年)を大幅に上回る規模で盛況裡に開催した。自動車技術展:人とするまのテクノロジー展は、5月に横浜、7月に名古屋で開催した。横浜、名古屋ともに前回は上回る出展規模、来場者数となった。

春季大会 <2018年5月23日(水)~25日(金) パシフィコ横浜(横浜市)>

学術講演会 100セッション、講演数454編(うち英語講演数90編)、参加登録者数6,141名
フォーラム 17件、聴講者数計3,969名
Keynote Address、JSAE Annual Party(技術者交流会)、女性技術者交流会

秋季大会 <2018年10月17日(水)~19日(金) (名古屋市)>

学術講演会 73セッション、講演数326編(内、英語講演21編)、参加登録者数2,668名
Technical Review、市民公開特別講演、秋季大会パーティ(技術者交流会)、学生フォーミュラ車両展示、産学ポスターセッション、女性技術者交流会

自動車技術展 <2018年5月23日(水)~25日(金) パシフィコ横浜(横浜市)>

<2018年7月11日(水)~13日(金) ポートメッセなごや(名古屋市)>

人とするまのテクノロジー展 2018 横浜 出展数597社/1207小間、来場者数93,458名、貢献出展社9社を表彰
人とするまのテクノロジー展 2018名古屋 出展数361社/761小間、来場者数41,306名、貢献出展社2社を表彰

シンポジウム

委員会企画
シンポジウム 計14回開催、計1,528名参加

6 学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号、公益目的事業1・2・3）

本年度は、「2050年チャレンジ」を基に制定した編集会議ロードマップをウェブ上で公開し、ロードマップ上の事業を一部スタートした。新規刊行物としては、「ドライブレコーダは見た！Vol.5 自動車・二輪車編」を発行、また出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人14名に出版・編集功績感謝状を贈呈した。

資料収集・調査研究に関する学術誌の発行（公1）

会誌「自動車技術」	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連のほか、自動車技術者や研究者などにとって有益なテーマを毎月特集テーマとして取り上げタイムリーな記事を掲載 ・「魅力ある会誌作りWG」を設置 ・8月年鑑号英語版のウェブサイト掲載を継続 ・年間発行部数約 63万部
自動車技術文献抄録誌	毎月発行し、4460件の文献を掲載した
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2018年度は、Vol.8 No.2～Vol.9 No.1として、計8回発行した
日本の自動車規格 (2017年日本語版)	JASO 規格 374件、TP・TR 64件、JIS 規格 386件、TRIAS 230件を収録
JASO 規格(英語版)	英訳された JASO 規格 288件を収録
高翔	関東支部企画・編集により2回発行
宙舞	中部支部企画・編集により2回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により2回発行
オートテクノロジー2019	第68回自動車技術会賞・技術開発賞受賞者へのインタビュー記事を収録し発行(53,500部)、会員に配布
テストングツール 最前線 2018	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事広告誌として発行(62,000部)。会員のほか、人とくるまのテクノロジー展来場者にも配布
次世代自動車技術 最前線 2018	次世代自動車に関係する各社の技術や取り組みをまとめた記事広告誌として発行(62,000部)。人とくるまのテクノロジー展来場者にも配布

研究発表に関する学術誌の発行（公2）

自動車技術会論文集	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回発行し、218編を J-STAGE にて公開した ・編集委員の増員、ならびにオンライン論文投稿・査読システム (ScholarOne) の導入による論文集事業の強化
International Journal of Automotive Engineering	英文の電子ジャーナルとして年4巻発行、62編を J-STAGE にて公開した
学術講演会予稿集 DVD	2018年春季大会分 455件・秋季大会分 326件を発行
Summarized Paper	2018年春季・秋季大会分をウェブ上で無料公開
フォーラム資料	14冊発行、合計 86文献を発行

人材育成に関する学術図書の発行（公3）

シンポジウム・講習会 テキスト	13冊発行、合計 100文献を発行
ドライブレコーダは見た！ Vol.5 (自動車・二輪車編)	東京農工大スマートモビリティ研究拠点協力の下、ドライブレコーダ映像を活用した交通安全教育用 DVD を発行(ヒヤリハット・事故映像17件収録、映像約27分)
関西支部	学自研機関誌(学自研ニュース)2回発行
九州支部	学自研機関誌(Eternal Car Life 21号)発行

広報関連他の発行

SIP 自動走行システム英文報告書	内閣府受託事業として、SIP-adus 5か年の取組みに係る情報を収集・整理・分析した英文報告書を制作(1,500部)
プレスリリース	15件配信
ニューズレターJSAE Eye	4回発行(4月、7月、10月、1月)
JSAE メールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信(登録者:約4万名)
北海道支部	支部だより1回発行
関東支部	行事案内5回発行
中部支部	支部ニュース6回発行
関西支部	行事案内8回発行

7 人材の育成 (定款第5条4号、公益目的事業3)

第16回 全日本 学生フォーミュラ大会には、98チームが参加登録、海外21チームを含む93チームが本大会に出場した。また、初の試みとなる「自動運転 AI チャレンジ」を3月に開催、新たな分野からの参加者を集めた。キッズエンジニア2018は横浜で開催し、参加者4,367名(27日(金)のみ)の参加者を集めた。また、支部主催の小学生向けものづくりプログラムも活発に行なわれた。自動車開発・製作セミナーは、座学講座編、競技車両見学編、走行実習編、ものづくり編、EVクラスでの参加チームに向けた回路製作実習編を実施した。新分野のエンジニア育成講座として、自動車サイバーセキュリティ講座を昨年度に引き続き開催した。また、自動車工学基礎講座はモーターサイクル工学講座1回を含め計6回開催した。自動車エンジニアレベル認定では、13名のJSAE フェローエンジニア、14名のJSAE プロフェッショナルエンジニア、28名のJSAE シニアエンジニアおよび135名のJSAE エンジニアを認定した。

自動車工学講座

基礎講座	第54回: 参加者136名、2018年6月12日～13日、7月18日～19日、広島県情報プラザ(広島)
	第55回: 参加者113名、2018年8月23日～24日、30日～31日、名城大学(愛知)
	第56回(モーターサイクル工学): 参加者395名、2018年9月26日～27日、静岡文化芸術大学(静岡)
	第57回: 参加者62名、2019年2月18日、クボタ阪神地区本社(兵庫)
	第58回: 参加者470名、2019年2月26日～28日、本田技術研究所(栃木)
	第60回: 参加者252名、2019年3月11日～14日、東京工業大学(東京)
JSAE ナイトセミナー	第1回: 参加者37名、2018年6月29日、自動車技術会(東京)
	第2回: 参加者27名、2018年8月3日、自動車技術会(東京)
	第3回: 参加者17名、2018年9月1日、自動車技術会(東京)
	第5回: 参加者11名、2018年11月30日、自動車技術会(東京)
	第6回: 参加者31名、2018年12月21日、自動車技術会(東京)
	第7回: 参加者32名、2019年2月22日、自動車技術会(東京)
	第2回: 参加者132名、2018年8月27日～28日、一橋講堂(東京)
自動車サイバーセキュリティ講座	演習・実習編 脅威抽出演習: 参加者14名、2018年11月30日、自動車技術会(東京)
	演習・実習編 脅威分析演習: 参加者20名、2019年3月6日～7日、自動車技術会(東京)

自動車開発・製作セミナー

座学講座編	参加者62名、2018年9月5日、エコパ(静岡) 参加者31名、2018年12月1日、神奈川工科大学(神奈川)
競技車両見学編	参加者7名、2018年4月7日、岡山国際サーキット(岡山) 参加者7名、2018年10月20日、オートポリス(大分) 参加者17名、2018年11月10日、ツインリンクもてぎ(栃木)
走行実習編	参加者3名、2019年3月11日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重) 参加者22名、2019年3月23日、日産GRANDRIVE(神奈川) 参加者18名、2019年3月28～29日、美祢自動車試験場(山口)
ものづくり編	参加者17名、2019年2月21～22日、ものづくり大学(埼玉)
EVクラス 回路製作実習編	参加者32名、2019年3月23日、日産GRANDRIVE(神奈川)

支部の講演会・見学会等

北海道支部	見学会1回、講演会3回(協賛含む)、市民講座3回を開催
東北支部	見学会2回(関東支部共同企画含む)、講演会2回、市民講座を3県8回開催
関東支部	関東支部 定例の講演会、講習会、見学会を合計23回開催 今年で10回目となった学生の国際交流活動をタイおよび台湾 SAE との相互交流として実施
中部支部	講演会3回、研究発表会1回、見学会14回、技術講習会5回、技術交流会2回、技術者懇談会3回、体験型講習会2回を開催
関西支部	見学会6回、講演会1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催(九州支部との合同見学会を1回含む)
九州支部	講演会3回、見学会1回、関西支部との合同例会(見学会、講演会)1回、市民講座3回、技術者交流会1回を開催

技術者・研究者の認定制度

	JSAE フェローエンジニア13名
第13回自動車エンジ ニアレベル認定	JSAE プロフェッショナルエンジニア14名 JSAE シニアエンジニア28名 JSAE エンジニア135名を認定

第16回 全日本 学生フォーミュラ大会—ものづくり・デザインコンペティション—

	2018年9月4日(火)～8日(土)にエコパ(静岡県掛川市/袋井市)で開催 ・来場者:17,605名(延べ人数) ・参加登録チーム:98チーム(国内74(ICV64・EV10)、海外24(ICV17・EV7)) ・本大会辞退チーム:5チーム(国内2(ICV1・EV1)、海外3(ICV2・EV1)) ・出場チーム:93チーム(国内72(ICV63・EV9)、海外21(ICV15・EV6)) ・フォローアップのみ参加:2チーム(国内2(ICV1・EV1)) ・車検通過:75チーム(全種目通過) ・エンデュランス走行台数:69台(内、完走:53台) ・総合成績:1位 大阪大学、2位 京都工芸繊維大学、3位 名古屋大学 EV、4位 Tongji University、5位 U.A.S. Graz、6位 名城大学
支部合同試走会	8月に関東・中部・関西・東北支部合同試走会開催
北海道支部	車検講習会1回、合同試走会2回、第16回全日本 学生フォーミュラ大会参戦報告会を開催、第16回全日本 学生フォーミュラ大会に1チーム参加
東北支部	車検講習会、機械車検会、EV 車検会、試走会2回開催、第16回全日本学生フォーミュラ大会 EV 部門へ2チーム参加
関東支部	6月に騒音講習会、燃調講習会、模擬車検大会、8月に燃料ヘルプデスク、溶接講習会、ダンパ相談会、もてぎ試走会、10月に制御講習会、12月にダンパ講習会を実施
中部支部	試走会準備会、走行技術トレーニング2回/3日間開催(小笠山総合運動公園)、学生フォーミュラ大会の3支部合同試走会へ13チームが参加、第16回全日本学生フォーミュラ大会に17チームが参加

関西支部	関西支部独自の試走会6回、走行会、試乗会各1回及び講習会・勉強会を11回開催、第16回全日本 学生フォーミュラ大会に17チームが参加
九州支部	試走会3回(5月、8月、11月)、基礎講座1回(5月)、車検講習会1回(7月)、安全運転講習会1回(8月)、勉強会1回(12月)を開催、リーダーミーティング2回(10月、3月)第16回全日本 学生フォーミュラ大会に6校 7チームが参加
自動運転 AI チャレンジ	
2019年3月23日(土)～24日(日)に東京大学生産技術研究所附属千葉実験所で開催。参加者403名。	
キッズエンジニア2018	
2018年7月27日(金)にパシフィコ横浜で開催(7月28日(土)は台風のため中止)。小学生及びその保護者を対象に教室型プログラム30件、体験展示型プログラム11件の41件を実施。参加者4,367名(27日(金)のみ)。	
支部の小学生プログラム	
北海道支部	市民講座1 くるま未来体験教室(関東支部と共同開催) 市民講座2 ラリー北海道「北海道自動車産業ゾーン」にてものづくり体験を協力 市民講座3 キッズエンジニア in 北海道2018
東北支部	市民講座「第4回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」「自動車の作り方と東北の自動車工場」を各1回開催 キッズエンジニア in 東北2018をスリーエム仙台市科学館にて開催。県内外の小学1～6年生を対象に児童659名が参加。協賛7社
関東支部	小学生くるま未来体験教室7回開催(内2回は北海道支部、九州支部との共同開催)
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド8回開催
関西支部	尼崎市 クボタ本社阪神事務所にて「キッズエンジニア」開催 茨木市 教育センターにて「キッズエンジニアわくわくエコスクール」開催
九州支部	くるま未来体験教室(関東支部と共同開催)
次世代カーデザイナー人材育成プログラム「中高生諸君！カーデザインに挑戦！」	
第7回カーデザインコンテスト	応募386作品、6名に各賞を授与、佳作25件
学生活動企画委員会の活動	
学生向けウェブ活動	技術セミナーin 関西(技術者育成委員会と連携企画)1件実施。学生向けの情報発信として、SNS (Facebook) を活用し、学生委員による企業訪問、イベント訪問などを12件実施。
学生安全技術デザインコンペティション	
2019年3月に開催される日本大会決勝へ向けて、国内の大学に安全技術デザインの提案を募集し、2018年8月末までに5大学6チームがエントリーした。エントリーチームを対象に、日産自動車の施設見学会・技術者とのディスカッションを実施した(2018年10月)。書類選考(2018年11月)を経て、日本大会決勝(2019年3月)を実施し、日本大学工学部バイオメカニクス研究室(日本大学)が最優秀チームに選ばれた。同チームは2019年6月にオランダで開催される世界大会に出場する予定。	
学生自動車研究会(学自研)の活動	
北海道支部	学自研参与・学生委員合同会議1回、学自研参与会議2回、若手技術者との交流会1回、雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回を開催
東北支部	支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、講演会1回、見学会1回、第37回タイヤ研修会1回、第28回自動車技術独創アイデアコンテスト1次(47アイデア)・2次(12アイデアより最優秀賞2名)、第29回手作り自動車省燃費競技大会(15チーム)、第33回整備コンテスト(17チーム)及び運転適性診断実施
関東支部	学自研大会1回、参与会1回、支部学生委員会12回開催 学術研究講演会、見学会、講演会などを7回開催

中部支部	<p>参与会2回、学生委員会5回、学生委員会引継会1回、卒業研究発表講演会1回、ものづくりセミナー1回、車検講習会1回、人とするまのテクノロジー展2018名古屋にプレゼンテーションとフォーミュラカー展示1回、基礎技術交流会1回、中部支部交流会1回、ドライビング講習会1回、スズキエンジン講習会1回、カート耐久レース1回開催</p>
関西支部	<p>参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、交歓会2回、小学生科学教室、新車試乗技術説明会、危険回避運転講習会、卒業研究発表会を各1回開催、学生フォーミュラ運営委員会5回、学自研ニュース2回発行</p>
九州支部	<p>学自研総会1回(台風中止)、研究発表会1回(台風中止)、見学会2回、安全運転講習会1回、懇親会1回(台風中止)、学生委員会議、講演会1回を開催、学自研機関誌1回発行</p>

8 規格の作成及び普及 (定款第5条5号、公益目的事業1)

2018年度は規格会議傘下に国際標準化活動へのシフト対応及び国内標準化活動の効率化のために自動車標準化委員会およびJIS/JASO規格審議委員会(自動車分野)の2委員会とITS標準化委員会(高度道路交通システム分野)を配し、自動車標準化委員会およびJIS/JASO規格審議委員会は「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画(2016年度～2020年度)」に基づき、ITS標準化委員会は「ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画(2018年)」に基づき、国内外の標準化活動を推進した。また、2018年5月に規格会議ロードマップをウェブ上で公開した。

昨年から継続して自動運転の標準化に関して自動運転標準化検討会を開催し、TC22及びTC204の各SC/WGの動向についての情報交換、日本の対応策検討を行った。他団体との連携においては、日本自動車工業会の国際標準検討会や自動運転検討会との情報共有、また自動運転標準化研究所(JASIC)において自動運転に関する基準と標準の連携活動を実施した。

自動車標準化委員会においてISO国際会議への派遣や日本開催等の活動を実施したほか、戦略企画WGを設置し、第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画の中間レビューおよび規格会議ロードマップ主要施策検討を実施した。また、JIS/JASO規格審議委員では、JIS/JASOの制定・改正審議を行った。

ITS標準化委員会において、「ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画(2019年)」を策定したほか、ISO/TC204の2回の総会に日本代表団、WG14専門家を派遣するなどの活動を実施した。

自動車標準化委員会(自動車分野)

	<ul style="list-style-type: none"> ・TC22/SC/WG会議 会議出席:133会議294名(ウェブ会議出席:70会議) 日本開催:7WG(SC31/WG8、SC32/WG2/WG4/WG6/WG10/WG11-SAE JWG PG4、SC33/WG9)
ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・7件の新規作業項目(NP)制定提案 - 車室内空気質-揮発性有機化合物(VOC)濃度測定方法-トラック及びバス - 自動車-ソフトウェア更新エンジニアリング - 自動車-電気・電子機器の環境条件及び機能確認試験 第1部 一般 - 自動車-電気・電子機器の環境条件及び機能確認試験 第3部 機械負荷 - 自動車-電気・電子機器の環境条件及び機能確認試験 第4部 気候負荷 - 自動車-電気・電子機器の環境条件及び機能確認試験 第5部 化学負荷 - 自動車部品-パワーウインドスイッチ水没試験方法 ・42件の国際規格案(DIS)回答 ・3件の日本提案・主導による国際標準規格等発行

	<ul style="list-style-type: none"> - 自動車-自動運転時のドライバ状態と運転引継ぎ性能 第1部 用語と定義 ISO TR 21959-1 - 自動車-機能安全 第2部 機能安全の管理 ISO 26262-2 - 自動車-機能安全 第12部 ISO 26262 のモーターサイクルへの適応 ISO 26262-12
	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回 ISO 研修会 基礎編(6月14日)参加者 112名 内容:ISOの基礎知識 ・第13回 ISO 研修会 実践編(11月29日)参加者 18名 内容:ISO エキスパート2名による講演、グループディスカッション
	<ul style="list-style-type: none"> ・China Automotive Technology and Research Center (CATARC)・日本自動車工業会との安全分野標準化意見交換会(7月26日) ・中国交通運輸部等と自技会の標準化活動における意見交換会(10月16日)
JIS	<ul style="list-style-type: none"> ・制定原案3件、改正原案3件 ・JIS、JASO 原案作成講習会:参加者14名(9委員会)、5月21日・5月30日(2回開催)
JASO	<ul style="list-style-type: none"> ・制定6件、改正6件、小改正11件、標準化調査12件、テクニカルペーパー制定2件
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画の中間を実施 ・自動運転標準化検討会におけるTC22、TC204、自工会との連携促進 ・12部会、62分科会を設置、構成委員数1,798名、開催数331回
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的国際標準化加速事業(D-Call Net 死亡重傷確率推定アルゴリズムに関する国際標準化)受託先:三菱総合研究所

ITS 標準化委員会 (高度道路交通システム分野)

	<ul style="list-style-type: none"> ・TC204 及び関連国際会議 会議出席:40 会議 62 名 ・日本開催 <ul style="list-style-type: none"> -WG14 自動バレー駐車システムワークショップ 4 回 -PALS ワークショップ1回 -WG3 国際会議(日本デジタル道路地図協会)1 回
ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・2 件の予備業務項目(PWI)提案 <ul style="list-style-type: none"> -高度道路交通システム - ハイウェイショーファーシステム-第1部:フレームワーク及び基本要件 -高度道路交通システム - ハイウェイショーファーシステム-第2部:単一車線内走行時の要件及び試験法 ・20 件の国際規格案(DIS)回答 ・8 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行 <ul style="list-style-type: none"> - ITS のセンター間のための XML を用いた通信の規定 ISO 14827-3 - 高度道路交通システム-商用貨物車テレマティクスアプリケーション(TARV)のフレームワーク <ul style="list-style-type: none"> - 第21 部:路側センサーの活用による機能強化 ISO15638-21 - 高度道路交通システム-位置参照手法-第2部 ISO17572-2 - 高度道路交通システム-道路境界逸脱防止システム(RBDPS) ISO19638 - 将来の標準化作業に向けた課金ポリシーと技術の調査-第2部 ISO/TR 21190 - 時空間データ辞書 ISO/TR 21718 - ITS におけるウェブサービスの利用-第3部 ISO/TR 24097-3 - CALM 非 IP 通信-第2部 ISO 29281-2 ・ITS AP Forum 福岡 国際標準化セッション(5月9日)参加者 54 名
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット「ITS の国際標準化 2018」を発行 ・ITS 分野の国際標準化戦略 5ヶ年計画(2019)を策定 ・協調型自動運転の標準化に関する専門家会議 参加者数:185 名、2019 年2月19日 ・ITS 標準化委員会、技術委員会、ITS 国際標準化戦略タスクフォース、WG14 分科会関連、その他の国内会議を 69 回開催、1,051 名出席

受託事業	・省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野))(高度道路交通システムに関する国際標準化) 受託先:野村総合研究所 ・省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野))(自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築) 受託先:野村総合研究所
------	--

JIS: Japanese Industrial Standards

JASO: Japanese Automobile Standards Organization

DIS: Draft International Standard

9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第5条6号、公益目的事業1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外では FISITA や APAC の活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2018(2018年7月)を共催
内閣府	SIP 自動走行システム5か年の取組みに係る情報を収集・整理・分析した英文報告書を制作(受託事業)
経済産業省	省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野)):①高度道路交通システムに関する国際標準化 ②自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築 戦略的国際標準化加速事業(D-Call Net死亡重傷確率推定アルゴリズムに関する国際標準化) 自動運転AIチャレンジの初開催(千葉:2019年3月)にあたり連携(後援)
国土交通省	第26回ESV国際会議(アイントホーフェン:2019年6月)における第8回学生安全技術デザインコンペティションへ派遣する日本代表チームを選考 自動運転基準化研究所(事務局:自動車基準認証国際化研究センター)における国際基準化活動と国際標準化活動の連携
日本工学会	理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を図った
日本機械学会	日本機械学会が幹事となり、第29回内燃機関シンポジウム(2018年11月)を共催
日本規格協会	自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 JIS、JASO 原案作成講習会への講師を依頼
日本自動車工業会	海外におけるPM研究動向の最新研究調査(受託事業)を実施 国際標準検討会・自動運転検討会との連携活動 自動運転AIチャレンジの初開催(千葉:2019年3月)にあたり連携(後援)
日本鉄鋼協会	材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進
計測自動制御学会	自動車制御とモデル部門委員会の活動で連携
新構造材料技術研究組合	構造形成技術部門委員会の活動で連携
FISITA	FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に本会役員などが就き、FISITA 組織・活動に参画 FISITA 2018 World Automotive Congress Chennai(インド チェンナイ:2018年10月)の開催に協力
APAC	APAC-20(バンコク:2019年4月)の開催準備に協力
SAE International	
国際会議の共催	国際会議共催の協力覚書のもと、SETC 2018(デュッセルドルフ/SAE 主担当:2018年11月)を開催、SETC2019(広島/本会主担当:2019年11月)、2019P,F&L(京都/本会主担当:2019年8月)の開催準備活動を推進

英国機械技術者協会 (I Mech E)	MOU に基づき友好的協力関係構築の活動を継続推進
中国汽車工程学会 (China SAE)	日中韓自動車フォーラム(横浜:2018年5月春季大会)を共催 中国年次大会 SAECCE2019(上海:11月)での日中韓フォーラムを共催
韓国自動車工学会 (Korean SAE)	日中韓自動車フォーラム(横浜:2018年5月春季大会)を共催
国際会議	EVS 31 & EVTeC 2018(神戸/日本自動車研究所との共催:2018年9月30日～10月3日)を開催
アジアなど海外に係わる活動	
英文電子ジャーナル	国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信
中国交通運輸部等との標準化意見交換会	中国交通運輸部や7つの省と市の標準化関係者が来日し、中国と日本の標準化活動における意見交換会を開催(本会/2018年10月)
ITS 国際標準化アジア仲間づくり事業	ITS AP Forum 福岡で国際標準化セッションを実施(2018年5月)
ESV:International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles	
FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies	
APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference	
SETC: Small Engine Technology Conference	
P,F&L: Powertrains, Fuels and Lubricants Meeting	
EVS: International Electric Vehicles Symposium & Exhibition	
EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference	

10 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第5条7号、公益目的事業3)

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

第68回自動車技術会賞	技術貢献賞4件、浅原賞学術奨励賞4件、浅原賞技術功労賞1件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与(学術貢献賞は該当なし)
技術教育賞	1件に授与
技術部門貢献賞	51名に授与
自動車技術会フェロー	30名に称号を授与
学術講演会 優秀講演発表賞	春季大会講演から10件、秋季大会講演から8件に授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった6名に感謝状を贈呈
ITS 標準化活動功労 感謝状	ITS 標準化活動に顕著な貢献があった5名に感謝状を贈呈
出版・編集功績感謝状	本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった方に感謝状を贈呈 編集功績感謝状4名、出版功績感謝状10名
学生対象の業績表彰	
大学院研究奨励賞	107名の大学院生に授与
学自研功労賞	11名の学生に授与

11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

公益社団法人対応業務	
内閣府への事業報告 ・決算書の提出	定時総会終了後、事業報告・決算書の提出を内閣府に対して行った。 (電子申請)
寄附金	18名の方から総額1,150,000円の寄附金をいただいた。
代議員会・委員会・だいじん会	
代議員会	第1回代議員会(2019年1月25日)を開催し、2018年度事業報告・予想決算、及び2019年度事業計画・予算について報告を行った。
運営企画会議	・戦略企画推進WGにおいて、長期的事業戦略および事業方針である「2050年チャレンジ」と「ロードマップ」の実現に向け、技術会議、企画会議、編集会議、教育会議、表彰会議、全日本学生フォーミュラ会議、展示会企画会議の計7会議体のロードマップをウェブ上で公開し、進捗管理を行った。
総務委員会	・2018年5月と10月に「女性技術者交流会」を開催した。 ・プレスリリースを20件配信
広報委員会	・ニューズレターJSAE Eyeを発行(4月、7月、10月、1月の年4回発行) ・各種メディアへ積極的にアプローチするなどの広報活動を継続
第55回だいじん会	2018年11月16日(金)にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員21名が参加。
規則制定・改正	
制定	なし
改正	第3回理事会決議:技術会議組織規則
会員増強	
関東支部	各社の入会促進活動を総務担当理事会で共有。春季大会無料送迎シャトルバスの運行継続。魅力ある支部行事の企画実施。
中部支部	女性技術者、生産技術者も含めた継続的な会員増強活動を行った。今後関連が深くなることが予想される他産業からも広く会員を募った。
関西支部	2019年度までの会員目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会、担当理事を介して各団体へ協力を要請した。
ウェブサイトを活用した会員サービス	
新規システム構築	JASO Standards (English ver.) Viewer イベント参加受付システム、抄録誌編集支援システム、出版案内、JSAE 会員 MY 書籍、JSAE Paper Archives、自動車用語多言語辞典、学生フォーミュラ集計・表彰システム、学生フォーミュラ支援システム、キッズエンジニアサイト、J-Tech Paper Entry System(国際会議論文受付システム)、アンケートシステム(クエスタント)、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、書誌情報の電子化、オンデマンドライブラリー、会員情報システム、委員情報システム、ウェブサーバの更新、支部ネットワーク環境の整備
支部総会・役員会	
北海道支部	支部総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回開催
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回、学自研参与会2回開催
関東支部	支部総会1回、理事会3回(内、顧問同席2回)、顧問会1回、事業担当理事会29回開催、ワーキンググループ3回開催
中部支部	支部総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会4回、顧問会1回、さんぼう会2回、各事業別企画委員会69回開催
関西支部	支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回、合同会議1回
九州支部	支部総会1回、理事会2回、常任理事会4回

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業